

高齢者とMayちゃん の生活



函館市医師会
高橋病院グループ・ゆとりろ 小 熊 恵 二

私は昭和21年生まれの高齢者です。専門は細菌学で、北大から札幌医大へ、次いで岡山大学に移り、平成26年4月から函館に住んでいます。北海道医報より、年男ということで何か書いてくださいとの依頼がありました。同じ理由で函館市医師会誌からも依頼があり、この年になり函館に来た理由と自分の研究のことなどを詳しく述べましたので、ここでは、平成27年5月よりわが家の一員となりましたトイプードルのMayちゃんとの生活を記載させていただきます。

函館では温泉を堪能したいと思い、湯川の温泉街の近くに終の住処を建てました。歩いて1分の所に「永寿湯」という銭湯が、15分以内の所には日帰り入浴可能なホテルが数軒あります。わが家に最も近い啄木亭というホテルの最上階の浴場はサウナも備えた大きなもので、女湯からはわが家が見えるそうです。サウナの大好きな妻は足繁く通っていますが、私はサウナは嫌いですし、Mayちゃんを一人残していくのは心苦しいので、最近では二人で留守番をしています。昨年、車で1時間も走ると、サウナも設備された新しい公的な温泉があり、老人は格安で入れることを知りました。そこには木陰もある広い駐車場があり、美しく整備されたオートキャンプ場も隣接していますので、Mayちゃんも連れて行き、私たちが入浴している間は車の中で待っていてもらい、その後、みんなでキャンプ場内を散策しています。最近この近くにペットの宿泊も可能な快適なロッジがあるとの情報も得ましたので、暖かくなったら一家で一泊の温泉旅行に出かけようと思っています。

私が大学に勤めていた時は夫婦してよく外国に行っていましたので、生き物は飼わない方針でした。しかし2年前、妻が埼玉の姉宅を訪問した際、ペットショップに居た愛想の良い白いぬいぐるみのような小犬に魅せられ、購入してしまったのです。これがMayちゃんです。私はあまり面倒をみるつもりはなかったのですが、だんだん慣れてくると、目を合わせると尻尾を振って近づいてき、私の手や顔などを舐めます。散歩をして分かったことは、Mayちゃんは犬よりも人が好きなのです。夜、家では最初はケージに入れ眠らせていましたが、排尿・排便のしつけができてからは、私が添い寝することを開始しました。今では私たち二人のベッドを渡り歩いて、どちらかと一緒に安心して寝ています。夫婦で出かけ留守番をさせておいた時はもちろんですが、ど

らかが帰宅した時でも狂ったように喜びます。可愛さは募る一方です。

私は毎週木曜日は函館市役所に産業医として、それ以外は老健施設で働いています。前者には生活習慣病（およびその予備軍）の方が、後者にはそのようなことが原因で入所された方が多数います。これらのことから、私はこれまで以上に食事と運動には注意するようになりました。驚いたことには、大沼公園の近くに駒ヶ岳を見ながら滑れる素晴らしいスキー場がありました。北大時代、医学部のスキー部に属していた私は、直ちにスキー一式を購入しました。特に年寄りにはスキーが危険であることは分かっていますので、毎日のように簡単な体操をし、足腰を鍛えることを開始しました。夏は妻と時々ゴルフに行きますが、これでは冬のスキーには役に立たないと思い、職場の若者と一緒に、週1回、公的な体育館で卓球を始めました。なんと高齢の私は、1回100円ほどでできるのです（金額は施設により異なります）。函館ではこのように種々の施設が身近にありますので、高齢者には大変住みやすい街と感謝しております。

最後に犬とのエピソードをもう一つご紹介します。それは入所されていた90歳以上の方のお話です。ご家族の他、長年可愛がってきた犬に会いたがっていましたが、体調の問題から一時帰宅は無理でした。家族によると、犬も相当の歳で、どちらが先に亡くなるか分からないとのことでした。施設にペットは入れられないのですが、幸い私の居室は裏玄関の近くでした。天気の良いある土曜の午後、私の部屋で愛犬に数分間逢っていただきました。その後、まず犬が他界され、しばらくして老人が温かな顔をして静かにご逝去されました。私たちとMayちゃん、これからのことは分かりませんが、なるべく他人には迷惑をかけずに終わりたいと願っています。新春早々に、このようなお話で恐縮しておりますが、生と死に対応しているのが医師ですでお許しください。

皆様にとり、本年も良い年でありますことを祈念しております。



Mayちゃん